

# 卒業生アンケート（研修医）結果報告書

2021年10月29日

医学部 I R 室

## 1. はじめに

本学医学部では、2016年に、学生が卒業時に修得すべき主要な能力を5つのコンピテンス（プロフェッショナリズム、コミュニケーション、医学知識と科学的探究心、診療技能、地域社会へ貢献）として設定しており、各コンピテンスに対するコンピテンシー47項目を設定している。

今回、愛知医科大学卒業生（愛知医科大学病院初期研修医1年目、2年目）および愛知医科大学卒業生を受け入れている初期研修先（研修病院）を対象として、本学のコンピテンス・コンピテンシーに関する卒業生の自己評価および本学卒業生を受け入れている研修先評価をアンケート調査した。

## 2. 調査概要

### 2-1. 調査項目

#### 1) 愛知医科大学病院初期研修医に対するアンケート

本学の47項目のコンピテンシーを「十分に身についた」、「身についた」、「身につかなかった」、「全く身につかなかった」の4段階にて、アンケート調査時点（2021年8～9月）での自己評価を行った。また、本学の教育全体に対する満足度を「十分に満足した」、「満足した」、「満足しなかった」、「全く満足しなかった」の4段階にて評価した。

#### 2) 初期研修先に対するアンケート

本学のコンピテンス5領域7項目[プロフェッショナリズム（医師としての価値観・態度・姿勢、生涯学習・自己啓発・自己管理、チーム医療・医療安全）、コミュニケーション、医学知識と科学的探究心、診療技能、地域社会への貢献]に関して、「十分に身につけている」、「身につけている」、「身につけていない」、「全く身につけていない」の4段階にて評価した。さらに、大学教育で強化してほしい点や改善してほしい点、本学卒業生の良い点・悪い点、本学に期待することや要望事項等について、コメントを求めた。

### 2-2. 調査対象

#### 1) 愛知医科大学病院初期研修医に対するアンケート

2021年度に愛知医科大学病院の研修医1年目および2年目を対象とした。

#### 2) 初期研修先に対するアンケート

2021年度に初期研修医（1年目、2年目）を受け入れた88病院を対象とした。

### 2-3. 調査方法

#### 1) 愛知医科大学病院初期研修医に対するアンケート

2021年8月に愛知医科大学病院卒後臨床研修センターを通して該当者に依頼した。初期研修医はWeb(Microsoft Formz)により47のコンピテンシーに関して、アンケート回答時点での自己評価を行った。

#### 2) 初期研修先に対するアンケート

2021年8月に初期研修医受け入れ病院先に愛知医科大学医学部事務部学生課から郵送にて依頼し、臨床研修担当部門担当医(代表者)に対して回答を求めた。また、併せて対象となる卒業生のリストも同封した。回答方法はWeb(Microsoft Formz)としたが、郵送による返信やメールによる回答も受け付けた。

### 2-4. 回答者数と回収率

#### 1) 愛知医科大学病院初期研修医に対するアンケート

研修医52名中、31名から回答を得た(研修医1年目15名、研修医2年目16名)。回収率は60%であった。

#### 2) 初期研修先に対するアンケート

初期研修先88病院中、51病院から回答を得た。回収率は58%であった。

## 3. 結果

### 1) 愛知医科大学病院初期研修医に対するアンケート(別紙1)

愛知医科大学の教育全体を振り返っての満足度(A48)は、研修医1年目では「十分に満足した」が33%、「満足した」が60%、「満足しなかった」が7%、「全く満足しなかった」が0%であり、研修医2年目では、「十分に満足した」が25%、「満足した」が75%、「満足しなかった」、「全く満足しなかった」が0%であった。

コンピテンシーに対する学生の自己評価「十分に身についた」の割合は、卒業時から研修医1年目さらに研修医2年目にかけて年数を追うごとに低下する傾向にあった。

研修医1年目または研修医2年目において、各コンピテンシスで、「身につかなかった」「全く身につかなかった」の割合が10%以上のコンピテンシーを列挙する。

### I: プロフェッショナルリズム

<生涯学習・自己啓発・自己管理>

8. 適切に自己評価をし、能力の向上のために、自己学習を自律的に継続できる。
9. 自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後進を育成できる。
10. 精神面、身体面で自己管理に努めることができる。

## II: コミュニケーション

20. 個人とだけでなく、集団、社会との適切なコミュニケーションをとることができる。

## III: 医学の知識と科学的探究心

22. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。

23. 生体の正常な構造や機能、および発生、発達、加齢、死を生命科学的知識により説明できる。

29. 医学・医療と社会との関連、社会の医療問題を説明できる。

## IV: 診療技能

35. 適切な検査を選択し、結果を正しく解釈できる。

36. 時、相手・場所に応じた適切なプレゼンテーションができる。

37. 患者と家族に対し、エビデンスに基づいて、適切に治療法・予後を説明できる。

39. プライマリ・ケア領域の救急対応ができる。

40. 慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション、介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。

## V: 地域社会への貢献

41. 地域社会における疾病予防、健康の維持・増進のための医師の役割を説明できる。

42. 地域の医療状況、社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できる。

43. 医療計画、地域医療構想について説明できる。

44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。

45. 社会保障制度を理解し、地域包括ケアの実践に参加できる。

46. 災害における被災者や、社会的弱者の現状について理解し、医療に関わるボランティア活動に参加できる。

47. 国際社会の健康問題を把握、説明することができ、可能な範囲でその問題に対処できる。

## **2) 初期研修先に対するアンケート（別紙2）**

研修先からの各コンピテンスでは、「身についていない」、「全く身についていない」の割合が10%を超えるものはなかった。各コメントの一部を以下に示す。

<コンピテンス評価についてのコメント>

- 優秀で熱心である
- 性格も素直で、向学心があり、知識も十分ついている

- 自分の担当以外の患者の疾患も積極的に興味を持って学んだり、外来処置の介助につくことで技能向上を目指すことができている
- 学ぶ姿勢は良いが、まだ知識面は不十分である
- 他大学に比してコミュニケーションに長けた方が多い
- 多彩な症例を経験したいという意欲、ただ見るだけでなく思考過程を身につけたいという姿勢があり、よくやってくれている
- 卒業時は学生感覚だったが、2年目の研修にて頼りになる存在となり問題なく研修できている

<卒業生の知識面や技術面などから見て、大学教育で強化・改善してほしい点>

- 医師としての心構え
- 引き続き参加型実習を通して基本的問診や診察ができる経験を増やして卒後研修に移行できるとよいかと思う
- 英語力。臓器名、病名程度は英語で知ってほしい
- 社会人としての一般教養(できたら医師以外の職種からの視点があるとより良い)
- 知識面では大学教育の際、臨床実習を積極的に行い、各診療科の主な疾患患者さんの主治医と行動を共にする様工夫してほしい
- 知識面は特にないが、技術面では臨床研修スタート時点でもう少し高い位置にあるといい
- 地域社会への貢献
- 病歴のまとめかた・プレゼンのやり方について
- 文献の探し方や最新のエビデンス(資料)の探し方
- 面接技術。入職時の面接の力がまだ不十分と思えるため。

<本学卒業生の良い点>

- コミュニケーション能力が高い
- 臨床研修に取り組む姿勢が積極的である、何事にも自分から進んで研修している
- まじめで積極的に取り組んでいる
- 医師としての価値観、自己管理、コミュニケーション力ができている
- 何についても熱心な姿勢
- 全般的に実直、優しい雰囲気
- 素直で積極的かつ真摯
- 明るく前向きな性格の人が多く、ストレスには強い印象

<本学卒業生の悪い点>

- 1人で調べる姿勢やチャレンジ精神、自己研鑽がやや乏しい

- コミュニケーション能力が少し低い
- やや積極性に欠ける
- 一般的に手術室での振る舞い等の意識が低い。のんびり、ふわっとしている人が多い
- 医局の入局に対し、否定的な人が多い印象
- 学習意欲に個人差がある
- 自ら提案・提言等が少ない
- 自分でやることを見つけて取り組めるといい
- 反応が鈍い（これまでの卒業生）、個性がない（反対にそれが良い点でもある）
- 満足度が低く、さらなる向上心が低い、もう少し上を目指してほしい

#### 4. まとめ

今回、卒業生アンケートとして、1)愛知医科大学病院初期研修医に対するアンケート、2)初期研修先に対するアンケートを行った。1)に関しては、本学のコンピテンシーの修得度に関する自己評価および本学に医学教育に対する満足度を回答してもらった。2)に関しては、研修先からの本学卒業生の卒業時コンピテンシスの評価および本学卒業生初期研修医に対するコメントおよび本学に対するコメントを求めた。

##### 1)愛知医科大学初期研修医に対するアンケート

卒業時コンピテンシーの習得度に関するアンケートの結果、プロフェッショナリズムのなかで、特に、生涯学習・自己啓発・自己管理に関する項目が多く、これについては、在学時から卒業時にかけて、講義や実習のなかでその能力を育成する必要があると思われる。

8. 適切に自己評価をし、能力の向上のために、自己学習を自律的に継続できる。
9. 自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後進を育成できる。
10. 精神面、身体面で自己管理に努めることができる。

診療技能に関するコンピテンシーに関しては、研修医1年目に比べ、研修医2年目において、コンピテンシーの未習得率が減少していたことから、本来ならば、卒業時において習得すべき項目であるが、一部の未習得卒業生に関しては、研修中に習得していることがわかる。

35. 適切な検査を選択し、結果を正しく解釈できる。
36. 時、相手・場所に応じた適切なプレゼンテーションができる。
37. 患者と家族に対し、エビデンスに基づいて、適切に治療法・予後を説明できる。
39. プライマリ・ケア領域の救急対応ができる。
40. 慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション、介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。

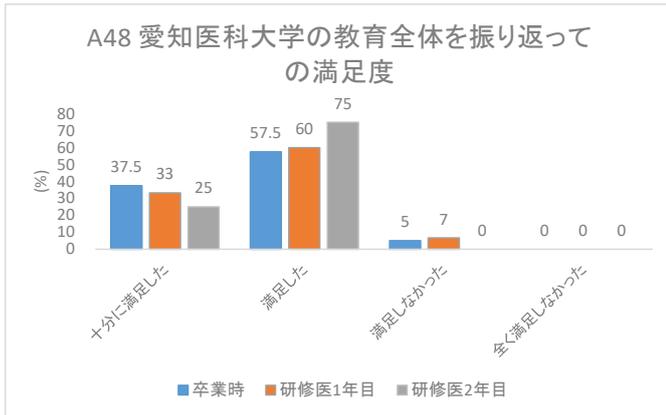
5つのコンピテンスのうち、V.地域社会への貢献に関するコンピテンシーに関して、「身につかなかった」「全く身につかなかった」の割合が多かった。これらに関しては、6学年次においても低い評価が多かった。これらのコンピテンシーの習得に関しては、本学大学病院以外の研修先との比較は行っておらず、今回のデータは本学大学病院にて研修を行っている研修医を対象としているため、卒業生全員に対する自己評価を行うことは今後検討すべき課題であると考えます。

## 2) 初期研修先に対するアンケート

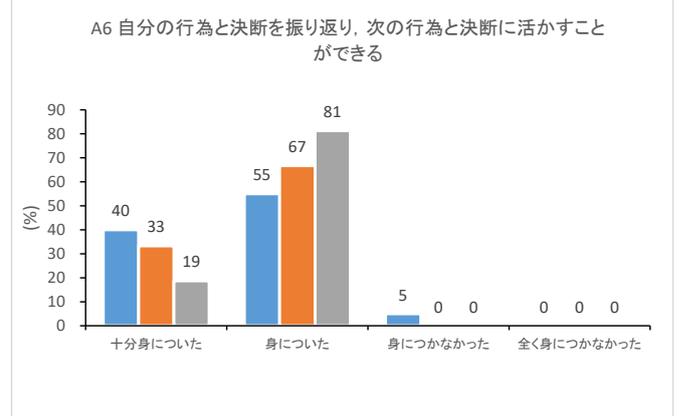
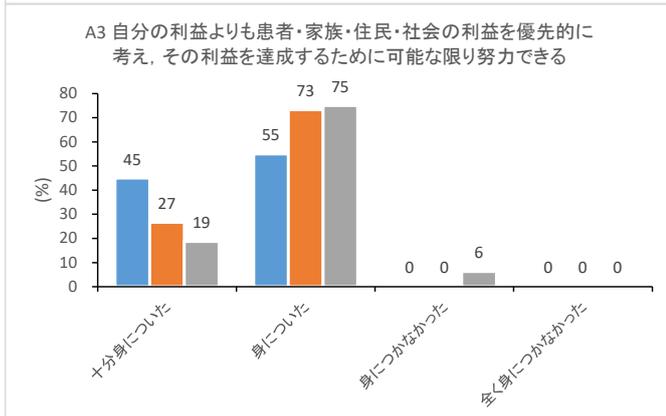
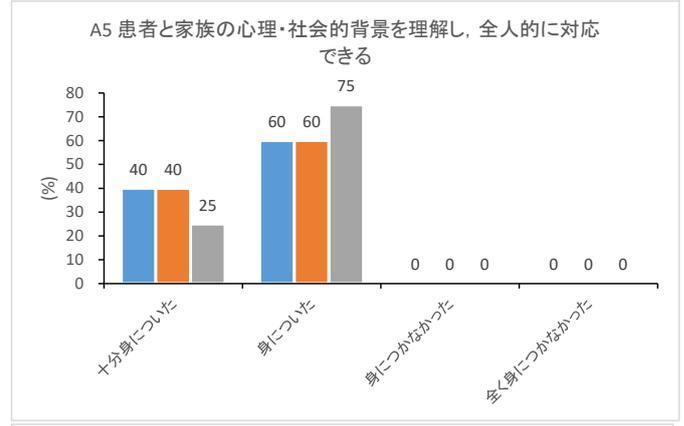
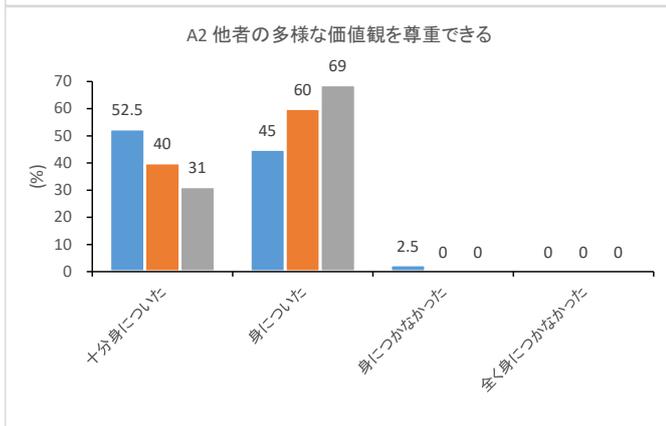
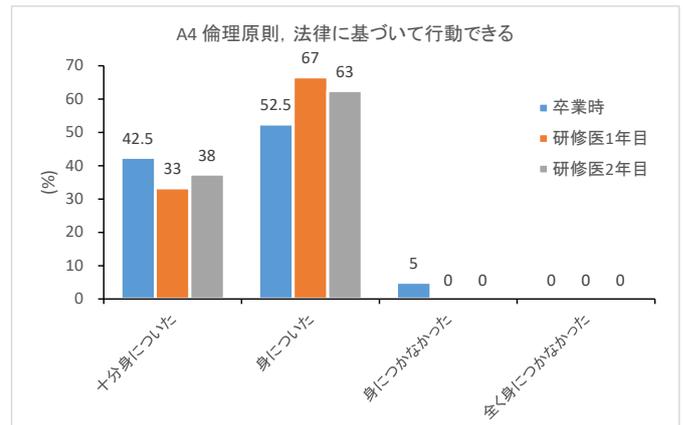
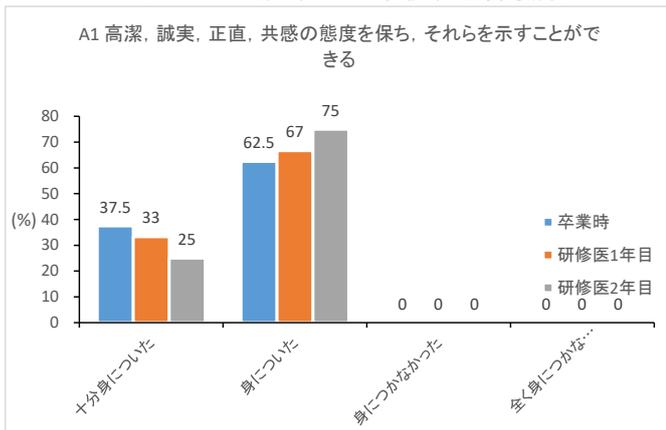
今回、初めて研修先病院から本学卒業生初期研修医に対するコンピテンス評価や本学卒業生の良い点・悪い点、大学への要望等などのアンケート調査を行った。研修医の自己評価に比べ、研修先の評価はすべてのコンピテンスに関して、「十分に身につけている」「身につけている」と概ね評価していた。また、コミュニケーション能力が高いとのコメントが多く、真面目、素直などおおむね好評価であった。一方、自己研鑽能力、自ら学ぶ力などを指摘するコメントもあった。大学で強化してほしい点としては、臨床手技、プレゼン能力、医師・社会人としての心構えなどがあげられた。これらに関しては、個人差があることが指摘され、入学時から卒業時まで一貫した医学教育の強化が必要であることが示唆された。

別紙1	2020年度 卒業生 n=40	回収率	36.7%
	2021年度 研修医1年目 n=15	回収率	60.0%
	2021年度 研修医2年目 n=16	回収率	59.3%

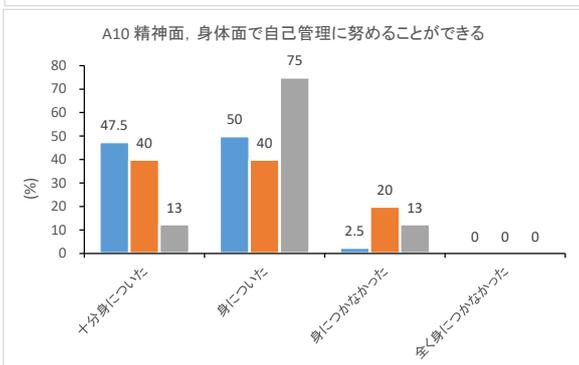
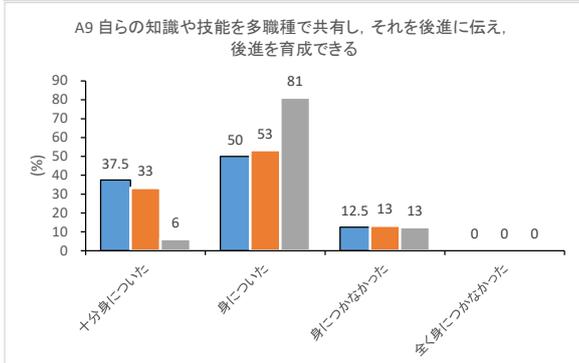
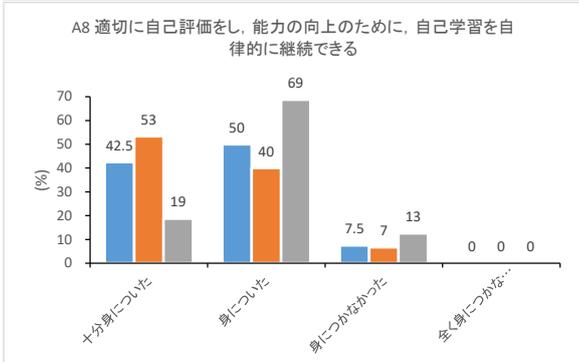
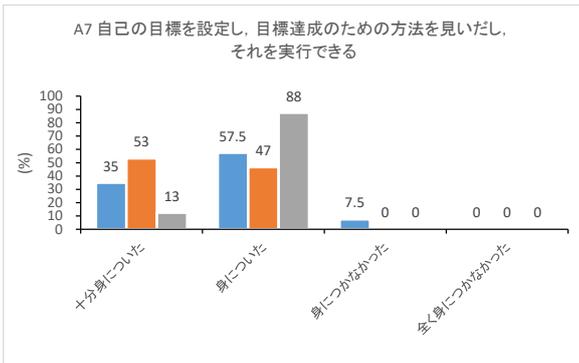
満足度



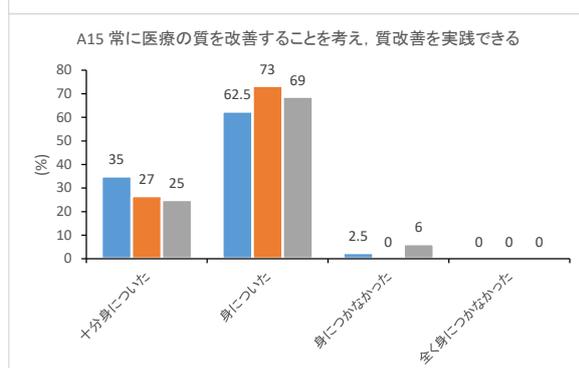
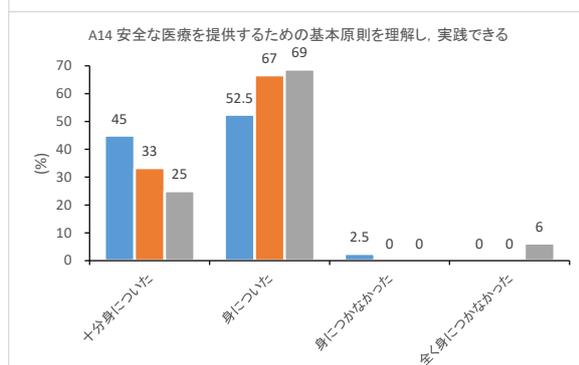
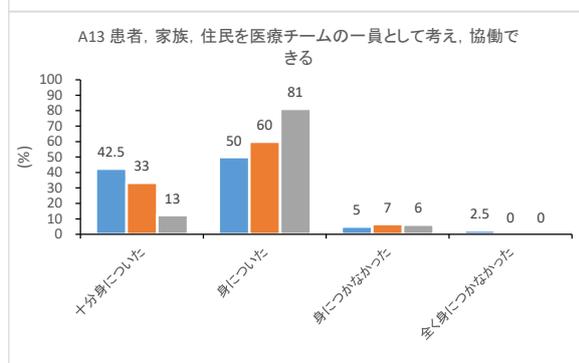
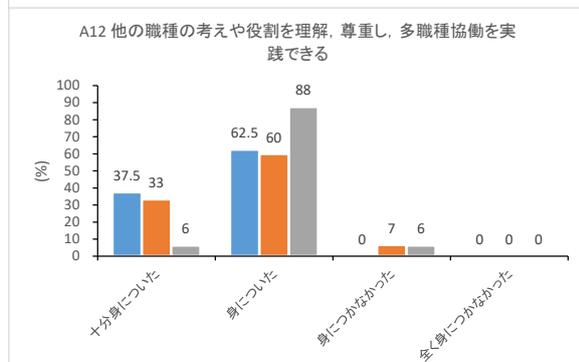
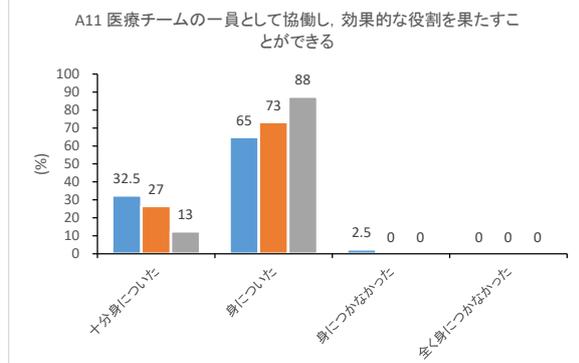
I. プロフェッショナリズム (医師としての価値観・態度・姿勢)



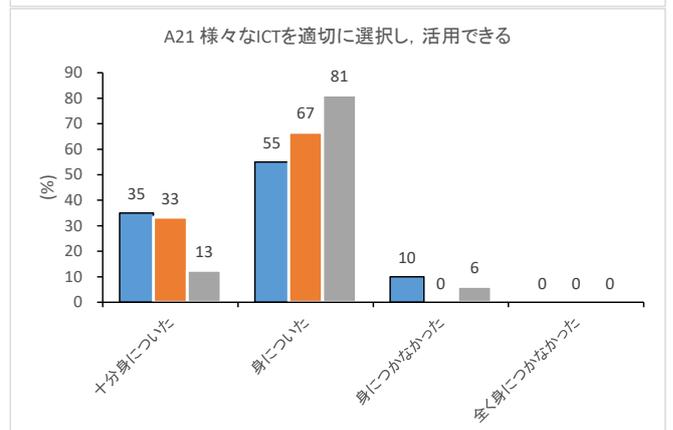
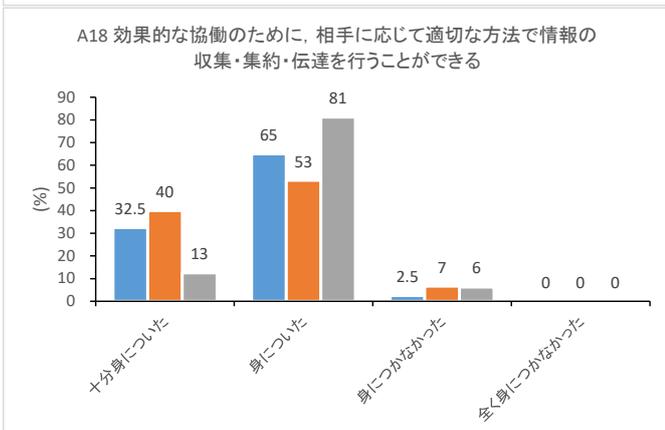
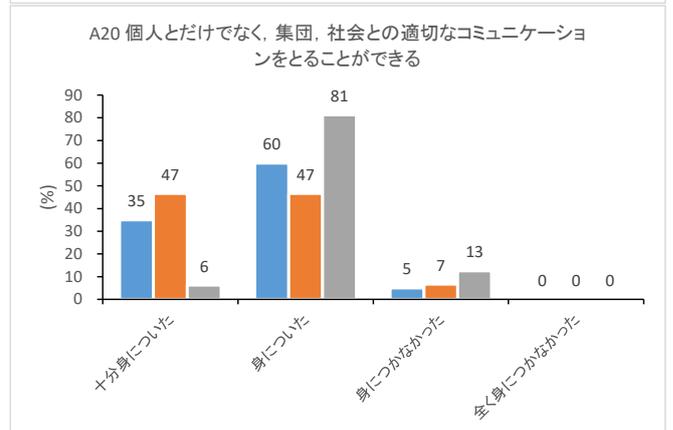
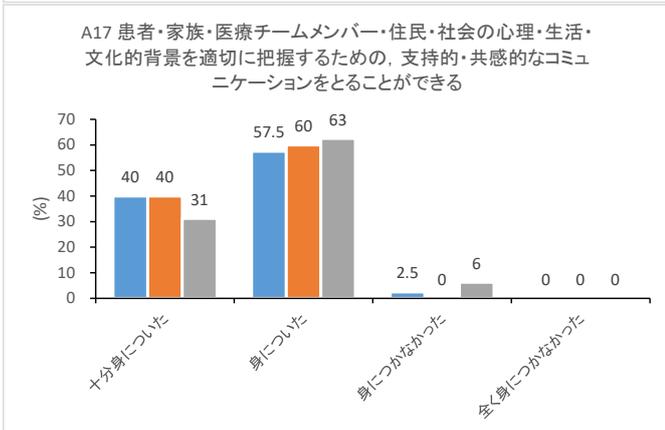
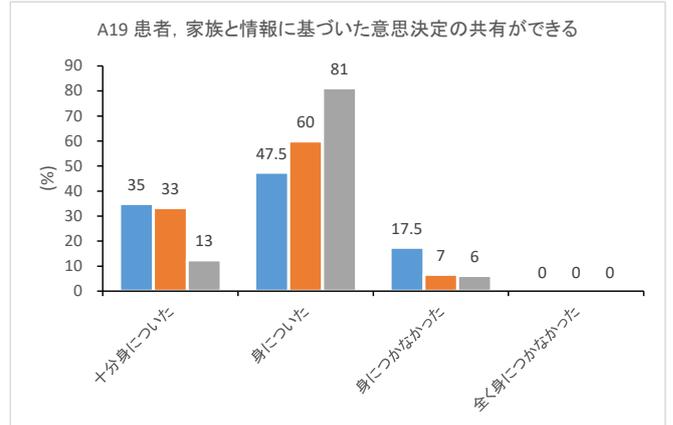
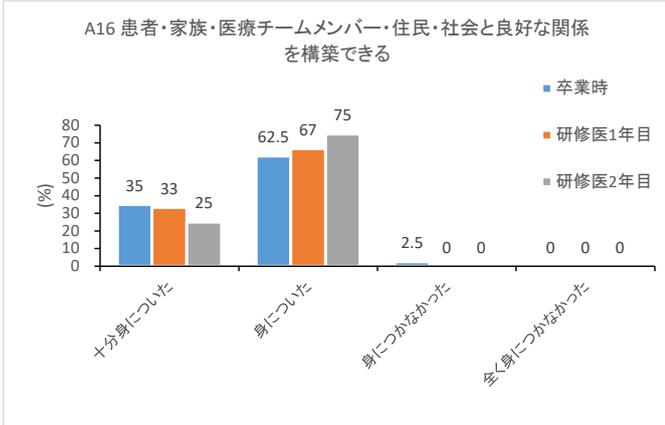
(生涯学習・自己啓発・自己管理)



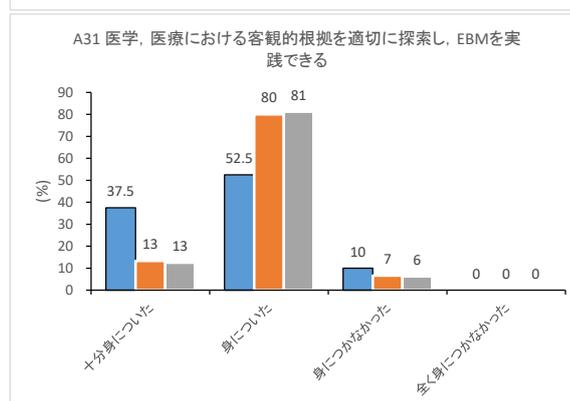
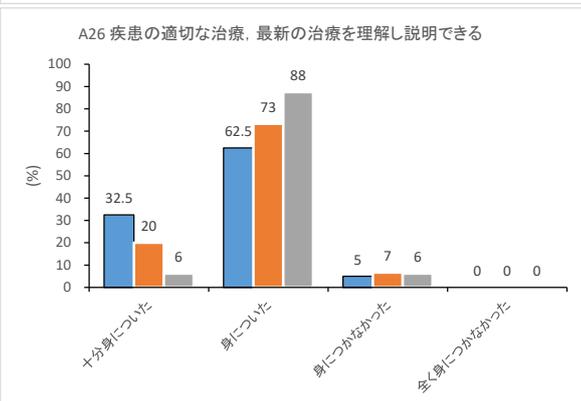
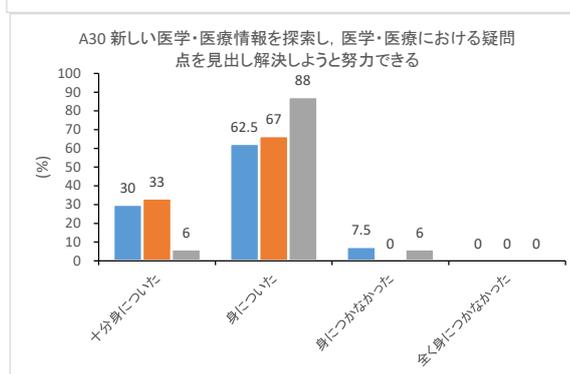
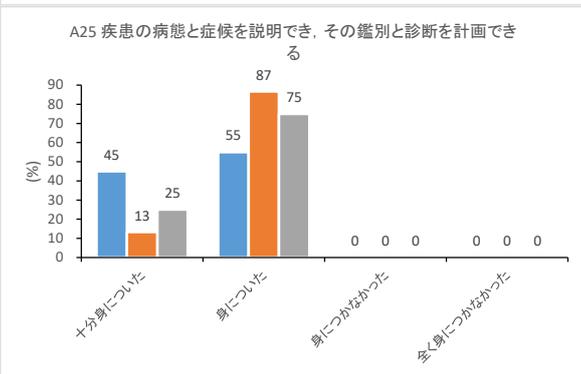
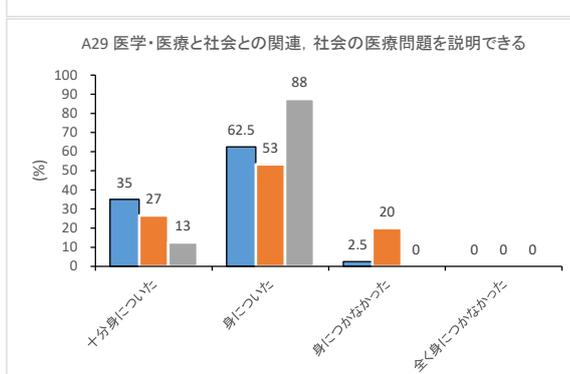
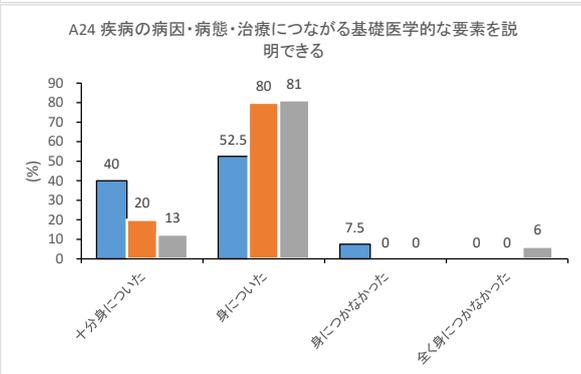
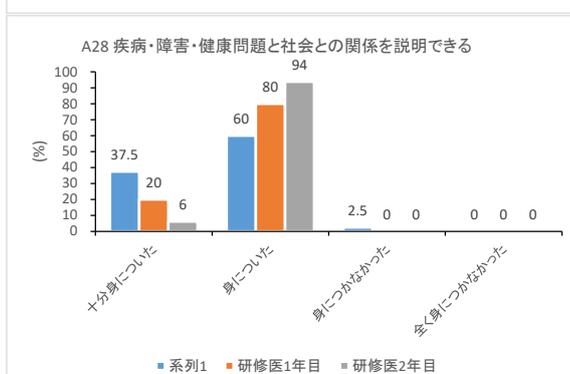
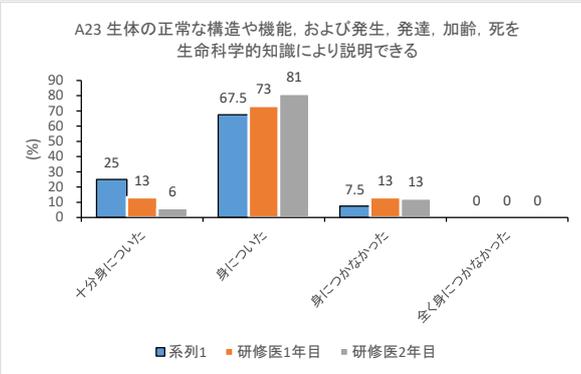
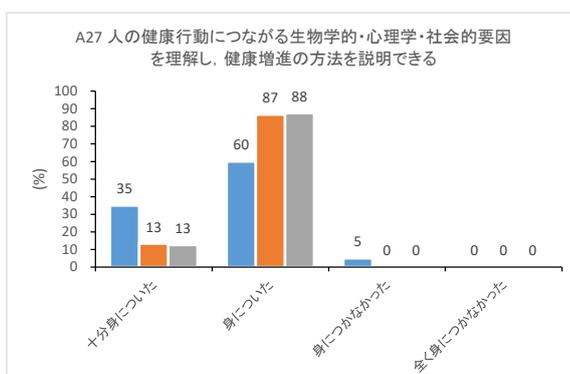
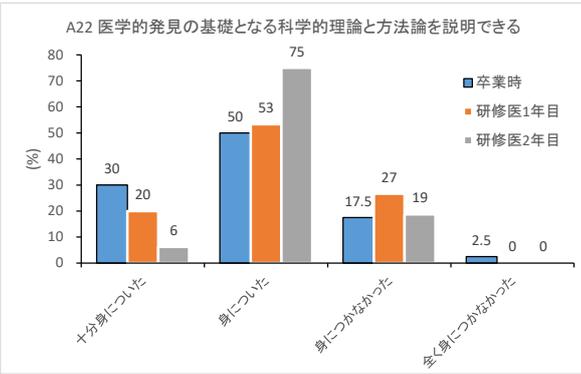
(チーム医療・医療安全)



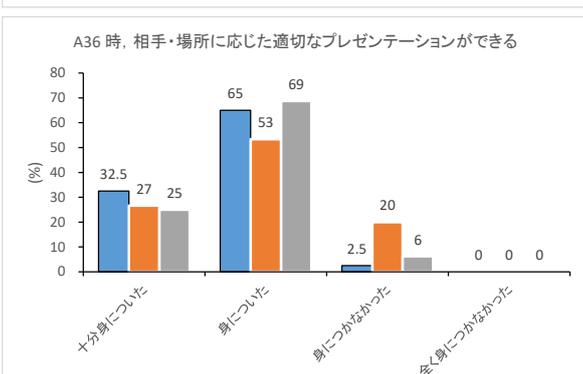
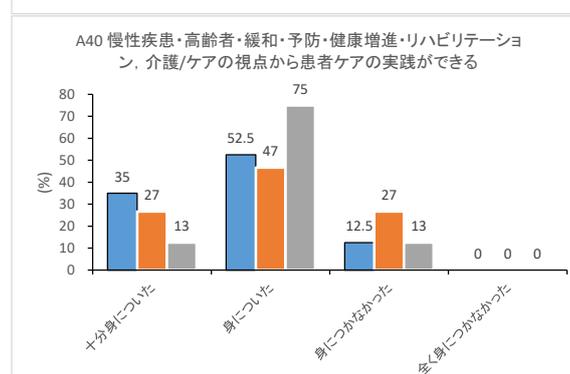
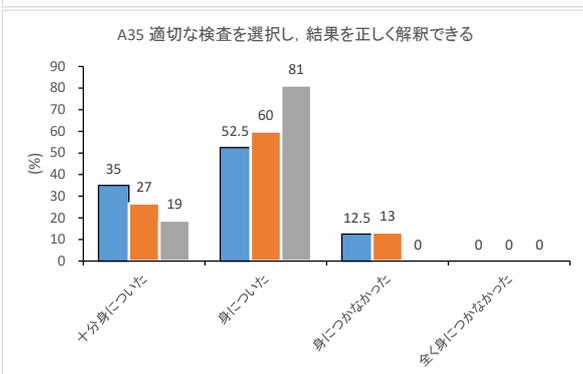
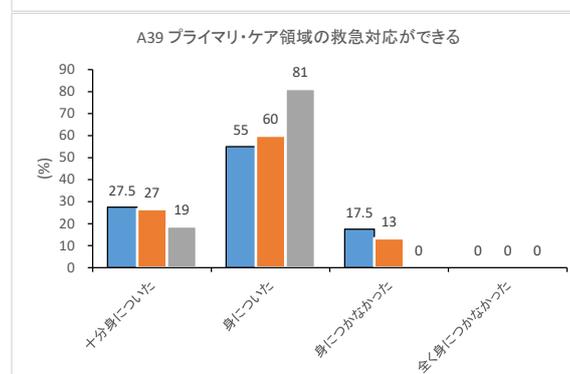
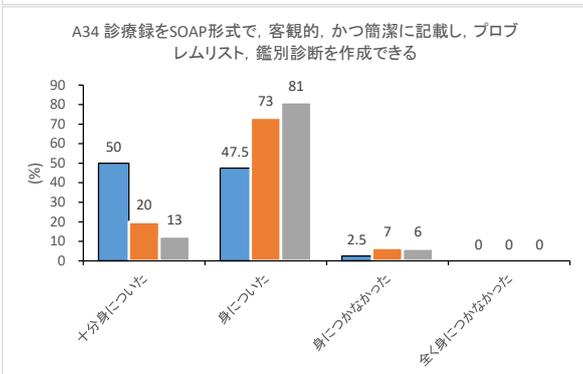
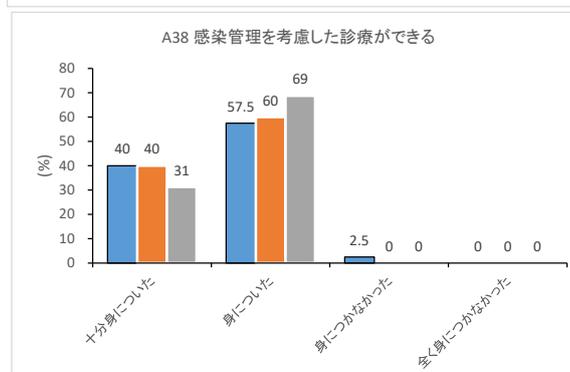
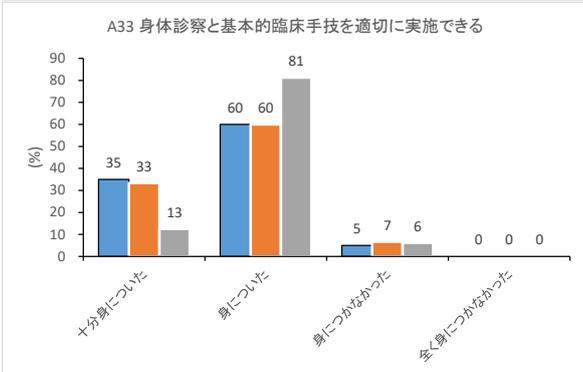
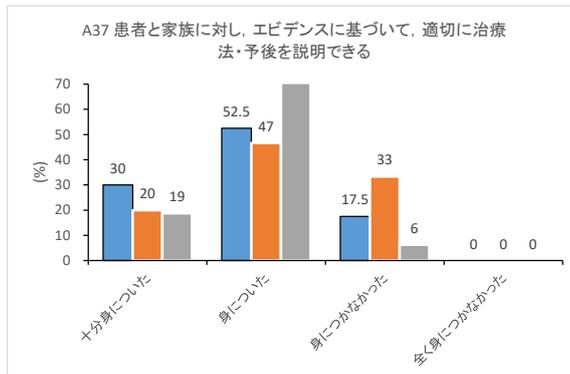
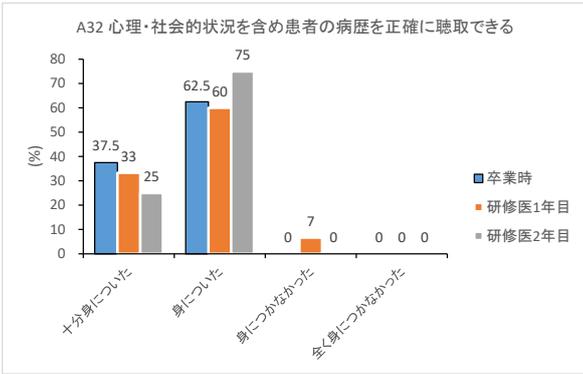
## II. コミュニケーション



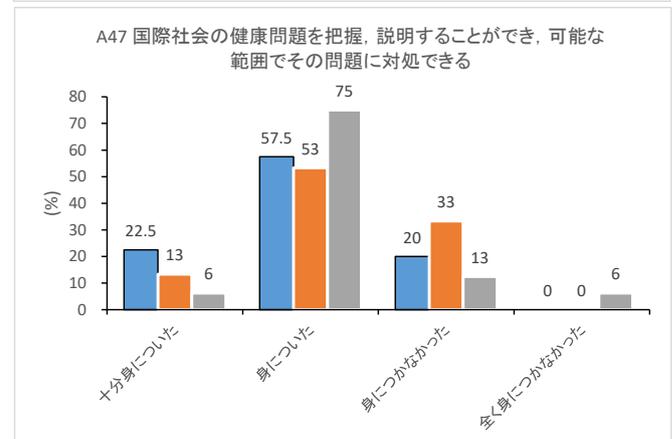
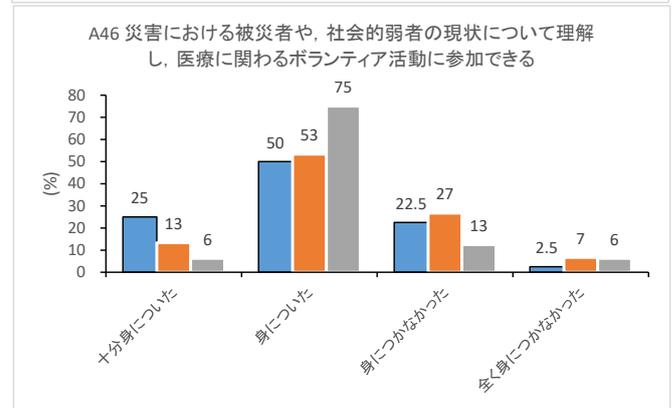
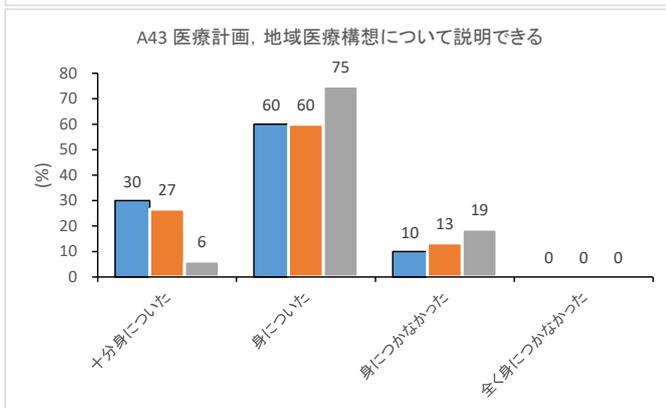
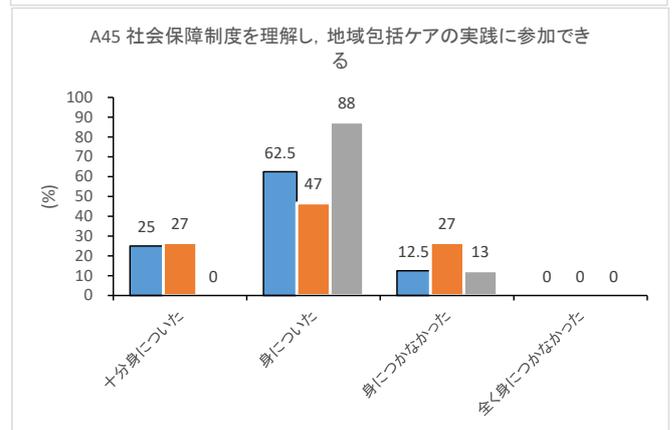
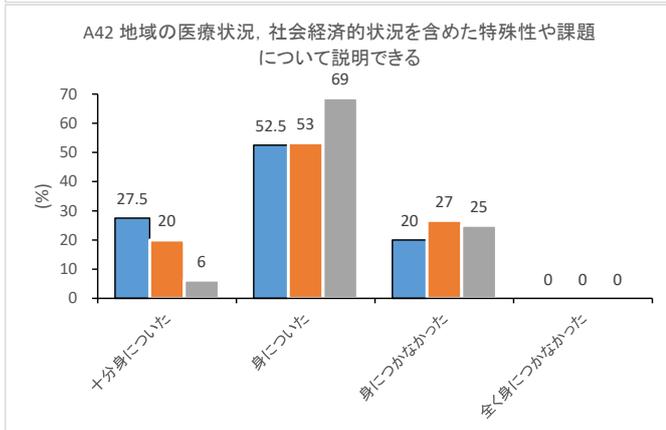
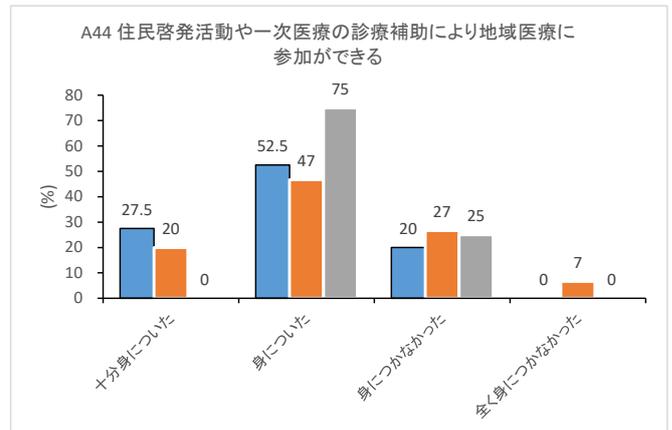
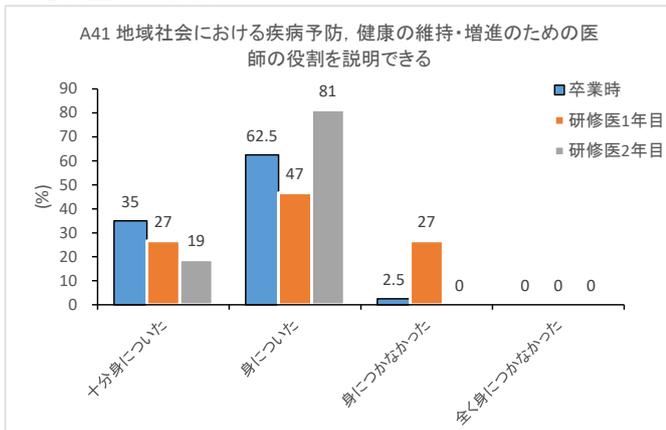
### Ⅲ 医学の知識と科学的探究心



#### IV. 診察技能



## V.地域社会への貢献



## 別紙2

